# 英国のホスピタリティ業界、10月31日までの週のワイン売上高が3.4%減

NielsenIQによると、減少幅は前週の6.9%から縮小したものの、売上高はクリスマス前の2025年の水準を下回った

2026年11月9日（月）



NielsenIQが英国全土の管理運営されている店舗における酒類販売を追跡したデータによると、英国のホスピタリティ部門におけるワイン売上高は、10月31日までの週に前年同期比3.4%減となった。10月24日までの週に記録した6.9%減に比べ、減少幅は縮小した。

11月6日にNielsenIQが「嵐で10月下旬の酒類販売が減速」と題した「Daily Drinks Tracker」の更新版で公表した数値は、クリスマス商戦を前に輸入業者、販売業者、業務用市場向けサプライヤーが注視するチャネルで、ワインが2週連続の週次減少となったことを示している。

今回の数値は、実売数量ではなく金額ベースの売上高の変化を測定している。NielsenIQはワイン

のポンド建て総額を公表していないため、データが示すのは名目売上高の前年同期比の変化率のみだ。このため、減少率が6.9%から3.4%に縮小したことは、減少幅が3.5ポイント縮小したと捉えるべきであり、週次で3.5%増加したという意味ではない。

このトラッカーは、各週の数値を2025年の同じ週と比較している。この比較では、直近の週に減少ペースが緩んだものの、10月下旬の両期間ともワイン売上高は前年を下回った。数値は名目売上高に基づくため、変動のうちどの程度が需要、メニュー価格、値引き、あるいは顧客の購入品目の変化によるものかは分からない。

NielsenIQの調査対象は、英国全土で同社のモニタリングサンプルに含まれる組織化されたホスピタリティ事業者に限られる。同社のデータは英国のホスピタリティ市場全体を代表するものではなく、国内のワイン消費量を直接示すものでもない。また、数量と価格、販促の影響を切り分けていないため、基礎的な需要を判断するうえでの活用には限界がある。

こうした留意点はあるものの、この2週間の動向が注目されるのは、業界が年間で最も重要な季節商戦に入る直前にあたるためだ。晩秋から初冬にかけては、パブ、バー、レストラン向けのワイン供給業者にとって重要な時期であり、売上高が2週連続で減少したことで、休暇シーズンの予約や社交イベントが増えるなか、業務用市場での支出が持ち直すかどうかに関心が集まりそうだ。

NielsenIQの更新版が示す広い背景からは、10月下旬の酒類販売に天候が影響した可能性がうかがえる。報告書のタイトルは嵐が販売を弱めたと指摘しており、この期間、ホスピタリティ施設への来店客数や消費支出が影響を受けた可能性を示唆している。ただし、ワインの数値だけでは、低調な実績の主因が来店回数の減少、来店1回当たりの支出減、あるいは飲料の選択の変化のどれだったかは分からない。

英国の業務用ワイン市場に関わる事業者にとって、最新の数値は明暗が分かれる内容だ。10月31日までの週の減少幅は前週より小さかったが、売上高は2025年の比較対象期間を下回ったままであり、入手可能なデータからワイン需要が全般的に回復したとは言えない。